この人 訪ねて

konohito・tazunete

YAMAKAWA FUKIKO

山川富喜子さん

久居ロータリークラブ

海外43カ国を回ったパワフルなデザイナー

「基本的には、毎週火曜日から金曜日は東京、土曜日から月曜日は三重、という生活をもう30年以上続けています」

三重県・久居（津市）と東京で二重生活を軽やかにこなす今回の主人公、インテリアデザイナーの山川富喜子さんはパワフルな人である。

東京から名古屋経由で久居まで約400キロメートル。30年超ということは1年52週として単純計算すると地球を30周以上したわけか。「走るインテリアデザイナー」、そんなキャッチコピーがピッタリ。山川さんにそう話すと、

「コロナ禍以前はイタリアやアメリカ、中国など、自社の事務所を含めて海外に月2回は行っていました。旅は大好きで、移動は全く苦になりません。特にイタリアには惚（ほ）れ込んで100回は行っているし、これまで行った国は43カ国になります。地球を何十周したかなんて計算したこともありませんけれど」

とかわされた。まずは東京都中央区月島の旭倉庫4階にあるアール・エフ・ヤマカワ（株）東京

支社を訪ねた。ショールームも兼ねていると聞いた。さぞや家具が所狭しと並んでいるだろうと思っていたら、開放的で巨大なオープンスペース。

「ショールームは予約制です。商品の種類があまりにも多いので、顧客の方にご希望の商品をカタログから選んでもらい、ここで組み立て、実物を見ていただくシステムです」

迎えてくれた山川さんの答えは明快だった。

この東京支社、感心しつつ拝見していた飲んべえの私の口元が緩んだのは、奥に立派なバーが併設されていたからである。社員が仕事を終えてから楽しむスペースで、外部の人も来てパーティーをすることもあるそうだ。この日は山川さんの友人、ヴランケンポメリージャパンの師井（もろい）研社長がシャンパンを持って現れた。師井社長は山川さんが主宰する異業種交流組織「山川組」の会員。20年以上前から組織されていて、会員は100人。定期会合は年に2回だが、小さな集いは2カ月に1回は開かれているそうだ。師井さんは言う。

「私はフランス人の母と、日本人の父との間に生まれた日系二世です。日本に来てから父の友人だった山川さんに世話になっていて、山川組で多くの人と知り合って人脈が広がりました」

インテリアデザイナーといっても山川さんの対象は家具にとどまらない。近鉄久居駅前広場のデザインプロデュースもしたと語る（左ページ右下）。すぐに地元に飛んだ。久居ロータリークラブの例会を取材後に現場へ。

「久居を盛り上げる会の会長をしていた1997年当時の久居市（現在は津市に合併）の市長に頼まれて、建築家などの仲間と一緒に計画しました。交通渋滞などの不便をいかに解消するか。使いやすさを模索するインテリアデザインにも通じるものがありました」

バスケの試合中に故障 東京でデザインの猛勉強

山川さんは、両親が三重県で創業した家具製造会社の一人娘だった。中学生になってからバスケットボールを始めた。身長は決して高くはないが、動きが俊敏でフェイントとロングシュートが得意だった。県立津女子高校では2年生からレギュラーで、2年連続インターハイに出場、3年時にはキャプテンとして活躍した。〝三重に山川あり〟と評判になり、名古屋の市邨（いちむら）学園短期大学（現在の名古屋経済大学）にバスケットボール特待生として入学したのが1970年。インカレ（全日本大学バスケットボール選手権大会）でも注目を浴びたが、決勝リーグの試合中に左足のアキレス腱を切るアクシデントが。

「痛かったし驚きましたが、このけがも良いタイミングだと。そろそろデザインの勉強をしたいと思っていたので、あまり悲観しませんでした」

山川さんに涙はなかった。ただ、すぐにはバスケから離れられず、22歳で三重県代表選手として千葉県木更津国体にも参加した。実家の仕事を手伝っていたが、家出同然に東京に出たのはその直後のことだ。友達の家に転がり込んでアルバイトをしながらデザインスクールに通った。74年に桑沢デザイン研究所の入学試験に受かったが、入学金など24万円が払えず、当時働いていた会社の同僚から借りた。生活を切り詰め、毎月2万円ずつ返し、1年で完済したそうだ。

「一人前になるまで三重の両親を頼ることはしないと決めていた」

桑沢デザイン研究所を卒業してLDヤマギワ研究所（現・株式会社YAMAGIWA）で照明デザイナーを1年間。人脈は広がった。77年に母親から、

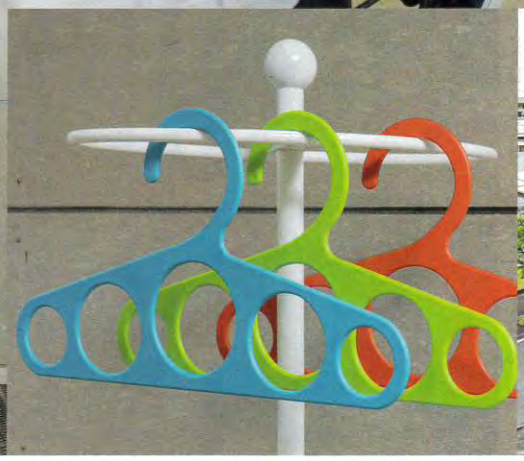
「戻って会社を助けてほしい」

と言われた。山川ローヤルフラッシュ工業は当時年商3億円、従業員20人ほどの会社だった。

「刺激に満ちた東京から戻るのは嫌だった」

それでも帰郷を選んだ山川さんは、実家を支えるために、知恵と豊かな人脈を駆使した。オフィス家具に絞って製造を始め、東京事務所を設立、社名を現在のアール・エフ・ヤマカワに変更。92年には自らデザインプロデュースした本社ビ

久居ロータリークラブの例会



山川さんがデザインした商品はシンプルでロングセラーも多いという

ルを建設、これは中部建築賞に輝いた。家具を国内生産から海外生産に切り替え、アメリカや中国などにも事務所を開設。

山川さんはバスケットボールを通して知り合った夫と結婚。二児に恵まれた。子育てに追われたこともあったが、実母の助けも得て仕事を休むことはなかったという。社長のポストは父から夫に引き継がれたが、２０１１年に夫が急死、山川さんが社長に。７７年の頃に比べると、会社は現在年商で10倍以上と大躍進を遂げている。

子どもたちの夢をかなえる幸せをプロデュース

山川さんは毎年のように大きなイベントプロデュースを手掛けている。中でも珍しいのは西アフリカにあるブルキナファソでのデザイン指導やイベント企画プロデュース。

「本当にひょんな出会いから始まったのです。パリの国際見本市に出張した帰り、シャルル・ド・ゴール空港の混み合うビジネスクラス待合室でのこと。私の前の席が空いたので、入ってきたお二方に『ここ空いていますよ』と知らせたら、とても感謝されて名刺を渡され、交換したんです。その方が世界銀行に勤めていたブルキナファソ人でした。数カ月後、アメリカで再会した彼から、彼の親友の国連大使を紹介され、ブルキナファソでデザインに関わる助言を、と頼まれて招待されました。信じられないテンポで話は進みました。２度もブルキナファソに行き、三重県内ではブルキナファソを紹介するイベントを何度かプロデュースしました」

山川さんの小さな親切が巡り巡って仕事を世界に広げることにつながった話である。山川さんには、同じようなエピソードが山ほどある。8組の結婚式をプロデュースしたり、20組の仲人をしたことも。山川さんは言う。

「家具のデザインも好きですが、人の幸せをプロデュースすることが子どもの頃から大好きでした。高校時代はバスケットボール部のキャプテン兼マネジャーで、チーム全員分のチケットや旅館の手配をするなど細かい裏方仕事も得意でした」

山川さんは息子、娘と一緒にイタリアに短期間語学留学したこともある。フランス語やスペイン語はテレビで、中国語は職場で社員に聞くなどして、今も語学の勉強を続けている。どんな国の人とでも、自分の言いたいことを、知っている言葉を組み合わせて何とか伝えたいと思うからだ。

「世界を回っていろいろなものを見たい」

山川さんの子ども時代の夢だった。自社商品を海外見本市に出品したり、海外事務所を回るなど、わが思いはひと通り果たした。今度は子どもたちの夢もかなえてあげたいと山川さんは言う。

25年前に三重アクターズ養成所をつくったのも、自分の娘が通っていたバレエ教室の生徒から「ミュージカルに出たいのだけどどうしたらいいの？」と聞かれたことがきっかけだった。友人と力を合わせ、三重に養成所をつくった。最初は本社の3階で始めたジャズダンスなどの教室だったが、今は久居駅近くと、松阪の2カ所で受講生90人がレッスンを受けている。2018年にはイタリア・トリノで行われたジャパンウイークに参加して、養成所の子どもたち12人が舞台で踊った。

仕事の傍ら、バスケットボールは48歳まで現役で続けた。高校のバスケ部のコーチも長年務め、今も時々地元の中学でバスケットボールの基礎を子どもたちに教える。その現場にも同行させていただいた。年齢を感じさせないフットワークに驚いた。何より子どもたちへの教え方がうまい。シュートに失敗しても、基本ができていれば褒める。褒められた子は笑顔で活発に動く。

昨年11月に山川さんは社長を長男の木村奬さんに任せて会長に。これまでの蓄積を生かして外側から貢献したいという。講演を頼まれることも多く、話したことをまとめて小冊子を6冊作った。この中に『人生のデザイン―死ぬまで元気に生きる秘訣』というタイトルも。

老化をスローにするための毎日の良い習慣などの他に「もう70歳だから、などネガティブな考えは捨てて、幾つからでもいいから目標を持とう。それが大きければ大きいほど人生を楽しめる」の一文が脳に響いた。山川さんは60歳でファッションショー、70歳で映画作りという目標を立てた。ファッションショーは実現し、映画は構想段階だという。パワフルでポジティブな山川さんに同い年の筆者は圧倒されっぱなしだった。

◇**山川富喜子（久居RC会員）** インテリアデザイナー。アール・エフ・ヤマカワ(株)代表取締役会長。1951年三重県生まれ。県立津女子高校バスケットボール部でインターハイ2回出場。国体三重県代表選手。LDヤマギワ研究所照明デザイナーを経て、77年に山川ローヤルフラッシュ工業入社。88年社名変更。2011年社長。21年から現職。(株)イオスコレクション社長。異業種交流会「山川組」会長。三重アクターズ養成所代表。フッコ英会話教室代表も兼務。

協力・衣装提供 グランマ ママドーター、スタイリスト 菊地はるえ、ヘアスタイリスト 藤牧衛＆Hideka Watanabe、アクセサリー提供(株) acrylic 坂雅子

記事／山本朋史　山川さんのバスケ指導前に40年ぶりにコートでシュートしたが25本中2本しか入らず落ち込んだ70歳

撮影／工藤隆太郎　スポーツ万能の山川さん。卓球勝負は3戦3敗の完敗でした（元卓球部）